

2008・3月号

月刊 窯ナビ

必ず良いことがある人のために送る！

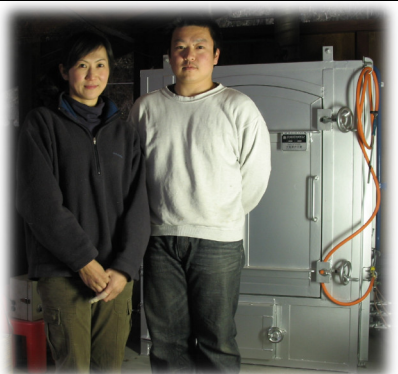
DAICHIKUのお得意様向けニュースレター

ウラ面も情報満載

【発行日】2008年3月1日 【発行人】大築窯炉工業 谷口浩司

〒309-1611 茨城県笠間市笠間2192-5 TEL0296-72-1444【ホームページ】<http://www.daichiku.jp/>

ユーザーさん登場 大野佳典氏 大野香織氏～念願のガス窯でリスタート～



【陶歴】大野佳典

福岡県直方市生まれ
1999 伊藤東彦氏に師事
2000 茨城県窯業指導所入所
2001 佐藤泰正氏に師事
2003 現在地に築窯
2005 独立、宥窯を築窯
2008 ガス窯を導入

【陶歴】大野香織

1999 秋山敏氏に師事
2000 茨城県窯業指導所入所
2001 堤綾子氏に師事
2003 独立、現在地に築窯
2005 宥窯を築窯
2008 ガス窯を導入

谷口：修行時代は伊藤陶房(伊藤東彦)さんにおられたんですね。
大野：はい、何も知らずに入れてもらったところが伊藤東彦さんの工房でした。
谷口：思い出に残る出来事がありましたか？
大野：はい、ありました。ある日、東彦さんが落ち葉を一枚持ってきて、その美しさを切々と語るのです。少しびっくりしました。
谷口：落ち葉を見てですか。
大野：やはり一流になる人はモノの見方やアンテナの張り方が違うなあ！と感じました。
谷口：落ち葉一枚を見てもいろいろ勉強になるんですね。
大野：そうだと思います。やきものばかりでなくて、何にでも「おもしろい」とか「きれい」ということに気がつくことが大事なんだなあ、と思いました。私も美的感覚をみがく努力をしていきたいと思います。
谷口：今の目標や今年やってみたいことがあったら教えてください。
大野：今年は公募展に出品したいです。それと4月末から伊藤陶房一門展があるので、一緒にならべて恥ずかしくない作品を仕上げたいです。
谷口：作品作りでいつも心得ていることは何ですか。
大野：シンプルなかになに自分らしさを出したいと考えています。時代に合った白磁や黄磁でカタチを見つけたいと考えています。人がやらないような手間をかけることで、作品作りをしたいです。できないことは山ほどあるけど、だからこそ挑戦してみたいんです。
谷口：どんなときにやりがいを感じますか？
大野：僕の性格を知っている人が作品を見て「大野っばいね！」と言われるとうれしいです。
谷口：最近一番うれしかったことは？
大野：ガス窯を購入できたことで、窯を置くために仕事場もかたづけられたので、心機一転頑張りたいですね。
谷口：当社のガス窯にした理由は？
大野：貸し窯を使っていたことや、窯業指導所にあっただけで良く知っていました。自分の焼きたいように焼けて、扱いやすく、安定していると思います。
谷口：当社にはどんなイメージがありますか？
大野：親身にいろいろ教えてくれるので心配しないで済む感じがします。

うれしい！楽しい！大好き！ダイチク！メッセージ！

大野夫妻の工房名は「OP-陶」。OPは楽観主義者のOptimistから取ったとのこと。細かいことをよく考えず、器の大きい豪快な生き方をしたいという思いが込められています。「転んだ先にいいところがあった」と思えるのも得な性格なんです。と、「自分は周りの人たちに生かされている」という謙虚な姿勢が、モノから何かを感じ取るアンテナの原点になっているような気がします。 家族は、奥さんの香織さんと、長男、長女の4人家族。ガンバレO次郎！



ユーザーの個展・展示会の情報募集

当社ではユーザーの個展・展示会の情報を募集しています。ダイレクトメール(DM)などの案内書ができましたら、弊社までお送りください。当ニュースレター「月刊・窯ナビ」やホームページ上でご紹介させていただきます。グループ展や小さなイベントでもOKです。どしどしお寄せください。費用は一切かかりません。

お客様に学ぶ今月の格言！

「美的感覚をみがく努力をしていきたい！」
【行動の原点は好奇心と感動にあるといえます。美的感覚をみがいて、言葉に言い表せない感動をやきものとして表現できたら素晴らしいですね！】

陶芸羅針盤 陶芸と希少金属(レアメタル)

日本のハイテク産業に欠かせないのが希少金属、いわゆる「レアメタル」です。希少金属とは埋蔵量が少なかったり、特定の地域に偏在したりしている金属を言います。生産国が偏っているため、その国の動向にたいして供給が不安定になってしまいます。このレアメタル、陶芸には関係ない話かというそうではありません。例えば、マンガンやコバルト、プラチナがあげられます。マンガン(乾電池、アルミ缶用)は南アフリカ、ブラジル。コバルト(特殊鋼、リチウムイオン電池用)はコンゴ、ザンビア。プラチナ(自動車用排ガス触媒、燃料電池用)は南アフリカ、ロシアが主な資源国です。熱電対で使用されるプラチナは最近5年間で2.5倍の価格上昇です。最近では毎月価格が上昇していると言っても過言ではない状況です。(参考:読売新聞 08.2.8)

ユーザーさんの個展情報



土泥SHOW ～掌の一品展～
2008年3/5(水)～3/16(日)
笠間工芸の丘クラフトギャラリー
0296-70-1313
青柳憲儀・河野カイ・小林哲生
鈴木慎一・西本典正



横山知加子 個展-カタチのたし算-
2008年3/5～3/23
笠間工芸の丘クラフトギャラリー
笠間市笠間2388-1
0296-70-1313



嬉々楽々2008 第二部2008年2/16～2/29
回廊ギャラリー門 0296-71-1507
外山亜基雄 橋口信弘 豊田恭子 桑原哲夫
桑原典子 森川泰治 高野利明 森永篤史
額賀章男 青柳憲儀 河野カイ 小久保恵子
湯川武利 山野辺孝 古川欽也 阿部誠



現代陶芸作家二人展
岩見正巳・岡真理子
2008年2/20～24
三越牛久店2階アートギャラリー
牛久市中央5-2-5
029-874-5571

ガス窯作り・ココがこだわり バーナー編

【ベンチュリーバーナー-燃焼の仕組み】

ベンチュリーバーナーは、ノズル先端孔から噴射するガスの圧力によって周囲の空気を取り込み、ベンチュリーレギュレータ内でガスと(一次)空気が混合し、火口(バーナーヘッド)でその混合ガスが燃焼されるというものです。これによって得られる燃焼を「予混合燃焼」といいます。ノズルから噴射するガスの噴出圧力によって、大気圧の空気を自然吸引して燃焼用一時空気を取り込みます。“吸引された空気”と“ノズルから噴出されたガス”はベンチュリー内部で完全に比例混合して燃焼性混合ガスとなります。一般的にはエアータンクの開度を一度セットすれば燃焼中は調節しなくてもよいとされていますが、ガス窯の操作に慣れて、酸化焼成や還元焼成に変化をもたせたい場合にはエアータンの量を無段階に調整することができます。

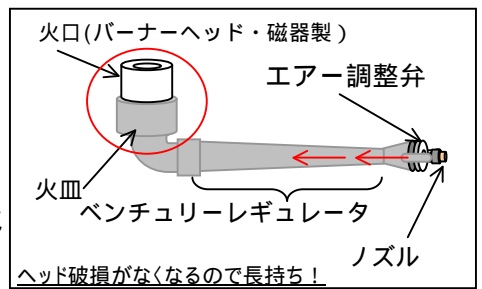
【ベンチュリーバーナーの特徴】

- 1、構造が単純である。
 - 2、バーナーヘッド(磁器製)が破損しても取替えが楽にできる
 - 3、単純構造なので掃除が楽である
 - 4、磁器製ヘッドの場合鉄粉が出ない(磁器焼成向き)
 - 5、メーカーが多いの高性能でしかも安い。
 - 6、バーナーヘッドが炉壁に組み込まれないので、変形の心配がない。
- などの理由から、ガス窯に採用される例が多いバーナーです。

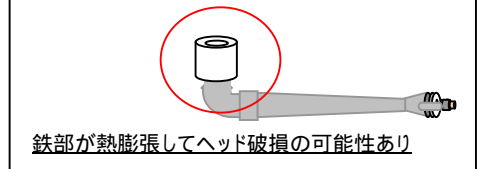
【交換しやすいバーナーヘッド】

バーナーヘッドをより簡単に交換できるように、火皿と呼ぶパーツをヘッドにあわせて旋盤加工し取り付けられています。こうすることで、破損の心配が格段に減り、バーナーを掃除する際にも簡単にはずすことができます。一般的にはバーナーヘッドは金属にねじ込んで使用しますが、こうすると金属の熱膨張がバーナーヘッドを破損させる原因になります。その他、炉に組み込まれた四角い漏斗(ろうと)状火口のバーナーがありますが、これは熱による変形の可能性が高く、脱着交換、清掃が難しいといえます。

ベンチュリーバーナーの各部名称



火皿を使わないねじ込み式バーナーヘッド



2つの燃焼 「予混合燃焼」と「拡散燃焼」

やきものの炎による窯を大別すると2つに分けることができます。一つは「予混合燃焼」を利用した窯と、もう一つは「拡散燃焼」を利用した窯です。予混合燃焼の窯は、ガス窯です。拡散燃焼の窯は、登り窯、穴窯です。つまり、バーナーの炎は予混合燃焼、薪を使ったものは拡散燃焼ということです。予混合燃焼とは、予め酸素と可燃性ガスが混合してあるガスの燃焼をいいます。家庭用のガスコンロやブンゼンバーナーで利用されています。拡散燃焼とは、ロウソクや薪のように火炎面を挟んで可燃性ガスと空気(酸素)が反対側から火炎に供給されている場合をいいます。ロウソクの場合は、解けたロウが熱によって気化し可燃性ガスに変化したものが、酸素と結合して燃焼します。可燃ガスが直接酸素と接している部分は青い炎です。青い炎は赤い部分が明るいので実際にはほとんど見えません。ロウソクを手を持ってゆっくり左右に動かすと青い炎になります。赤い炎から出る光は熱によってできた炭素(すす)によるものです。このように炭素が光っている炎を輝炎(きえん)と呼びます。輝炎は放射熱が強いので還元焼成時にゼーゲルが酸化のときより少し早く倒れるということから分ります。(今回は予混炎と拡散炎について)

トピックス 古窯店内に薪ストーブが出現～完全自家製です！



平成20年冬、窯元「古窯」店内に薪ストーブが完成しました。このストーブは弊社スタッフによる完全自家製です。昨年12月に製作決定後、仕事の合間を見て作り上げました。主な材料は中古レンガ、コンクリートブロック、鋼材、ステンレス製煙突です。特徴は、保温性に優れていることです。中古とはいえSK34 #耐火レンガを使用していますので、翌朝まで温かみをおびています。天板には家庭用ヤカン4つのせることができます。10分ほどで沸きます。ガス窯製作ノウハウを応用して炎の流れを考慮したダンパー操作により排気具合をコントロールできます。ストレート煙突なのでススが溜まりにくく、掃除がラクです。鉄部には600 耐熱塗料を使用しています。また、最大の特徴はおイモが焼けることです。焼きイモ専用パーツを鉄で製作し、みがき黒石を敷きつめてあります。満遍なく熱が通るので非常においしく焼くことができます。ご賞味あれ！(¥100/100g・税込)

編集後記「あとかんげん」

弥生三月、花は梅から桜に移ろうとしています。桜はまだまだ「つぼみ」も固いようです。だんだん暖かくなってきましたがいかがお過ごしでしょうか？ さて、股関節を鍛えると風邪をひかない、などという人がいます。なるほど～いつも四股を踏んでいるお相撲さんは裸でいても風邪をひかないんだ！と妙に納得してしまいます。お相撲といえば初場所両横綱の一番は力が入りましたね。お相撲で優勝すると大きな盃で日本酒を飲み干す場面をよく見ます。昔、大盃の高台内に「武蔵野」と書かれていたものがあったそうです。なぜ、武蔵野かという、武蔵野の野原は広いので「野を見尽くすことができない」、「野を見尽くせない」そこで「呑み尽くせない」ほど大きな盃だよ！どうだのめるか？という洒落だそうです。こんな洒落のきいた言葉を盃のしか飲み干す時にしか見ることのできない裏側に書いておくなんて、本当に粋ですね。そこで一句、「酒飲みをたえて言えば花ならつぼみ 今日も咲け咲け あずも咲け」。